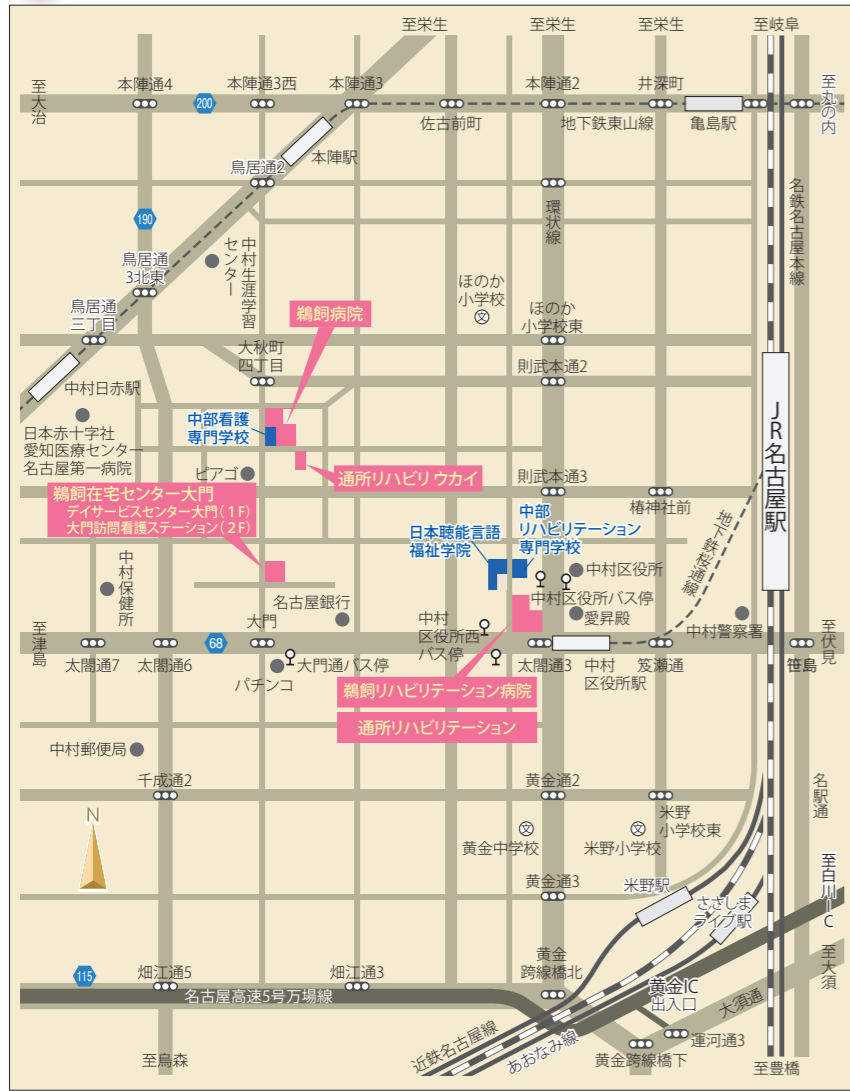


ご案内図



交通アクセスのご案内

- 地下鉄/桜通線「中村区役所」①出口より..... 徒歩約 1分
- 市バス・名鉄バス/「中村区役所」下車..... 徒歩約 1分
- JR名古屋駅太閤通口より..... 車で約 5分
- 名古屋高速道路「黄金」ICより北へ..... 車で約 5分

医療機能評価認定病院です
(財)日本医療機能評価機構により、医療機関(療養)・リハビリテーション機能(回復期)としての基準を達成しているとの認定をいただきました。

URH 医療法人 珪山会
鵜飼リハビリテーション病院

〒453-0811 名古屋市中村区太閤通4-1
TEL 052-461-3132 FAX 052-461-3231
Eメール mail@kzan.jp ホームページ <http://www.ukaireha.kzan.jp/>

時代のニーズに応える
珪山会グループ

鵜飼 病院
TEL 052-461-3131
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

鵜飼リハビリテーション病院
TEL 052-461-3132
FAX 052-461-3231
名古屋市中村区太閤通4-1

通所リハビリテーション
TEL 052-461-3237
FAX 052-461-3238
名古屋市中村区太閤通4-1

通所リハビリウカイ
TEL 052-461-9195
FAX 052-461-3107
名古屋市中村区寿町6-1

**デイサービスセンター大門
(鵜飼在宅センター大門1階)**
TEL 052-461-3204
FAX 052-461-3214
名古屋市中村区賑町26

**大門訪問看護ステーション
(鵜飼在宅センター大門2階)**
TEL 052-471-2533
FAX 052-485-9702
名古屋市中村区賑町26

中部リハビリテーション専門学校
TEL 052-461-1677
FAX 052-471-2333
名古屋市中村区若宮町2-2
<http://www.chureha.kzan.jp/>

中部看護専門学校
TEL 052-461-3133
FAX 052-483-0873
名古屋市中村区寿町29
<http://kango.kzan.jp/>

日本聴能言語福祉学院
TEL 052-482-8788
FAX 052-471-8703
名古屋市中村区若宮町2-14
<http://ncg.kzan.jp/>

鵜飼リハビリテーション病院
ハートフル情報誌
ReHappy!
Vol.81

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌

ReHappy!

リハッピー

Vol.81

発行人/ 鵜飼泰光
発行/ 鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
名古屋市中村区太閤通4-1
<http://www.ukaireha.kzan.jp/>
編集/ 鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
編集グループ
編集協力/ プロジェクトリンク事務局
発行/ 令和4年10月1日

〈特集〉

5回目の病院機能評価の審査を受け、 高い評価を獲得。



URH 医療法人 珪山会
鵜飼リハビリテーション病院

5回目の病院機能評価の審査を受け、高い評価を獲得。

鵜飼リハビリテーション病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院評価の更新審査を5年ごとに受けている。

今回、2021年11月1日～2日に訪問審査を受け、

リハビリテーション病院として高い評価を得ることができた。

前回の受審からの5年間を振り返り、病院全体でどのような取り組みをしてきたのか、

病院機能評価対策会議の主要メンバーが、

ざっくばらんに語り合った。

病院機能評価は成長のチャンス。

まずは今回の受審を振り返り、率直な感想を一言ずつお願いします。

倉地 病院機能評価は、実際に自分たちがやっていることが患者さんのためになっているかどうかを客観的に知る好機です。前回、2017年に受審したときは病院としてまだまだ未熟な部分もありましたが、そこで指摘していただいた課題に真摯に取り組んできて、評価項目のほぼすべてにわたり、A以上の評価（※）をいただくことができました。これは本当にありがたく思いましたね。

※病院機能評価は、患者中心の医療の推進をはじめ、4つの評価対象領域から構成される各項目について評価される。各項目の評点は、S（秀でている）、A（適切に行われている）、B（一定の水準に達している）、C（一定の水準に達していない）の4段階で評価される。

病院機能評価は自分たちを客観的に見つめるチャンス。今回得た課題を活かし、さらに質の向上に取り組みたい。



副院長 倉地英志

病院機能評価とは…

病院機能評価は、病院の運営管理と医療について、公益財団法人日本医療機能評価機構が中立的、科学的・専門的な見地から評価を行い、より良い病院づくりを支援する仕組みである。具体的には、診療管理、看護管理、事務管理の専門知識と経験を有する評価調査者（サーベイヤー）がチームを組んで、病院を訪問。厳しい審査を行い、一定の水準を満たした病院を「認定病院」と判定する。

鵜飼リハビリテーション病院は2002年より認定を受けており、今回は5回目の認定更新（認定日：2022

年2月4日）。なお今回は、病院機能評価とあわせてリハビリテーション（回復期）の領域で「高度・専門機能」の審査も受け、2つの認定を取得している。高度・専門機能の認定は、本体である病院機能評価の受審病院で、かつ高度・専門機能の評価対象となる領域において高い水準を維持している病院が対象となる。



5年前とは違い、今回はサーベイヤーの方々に自分たちがやっていることを自信を持ってアピールできました。

看護部 部長 猪川まゆみ



森田 同感です。しかも、最高ランクのS評価を5つもいただきました。自分たちのやってきたことを、きちんと評価していただけたことがうれしかったですね。

猪川 それに今回は、私たち自身も、サーベイヤーの方々に自信を持ってアピールできたように思います。5年前は、とりあえず評価項目についてどんなふうに説明しようかと考えるレベルでした。でも今回は、どうすれば、自分たちがやってきていることをアピールできるか、という積極的なスタンスで臨めました。



倉地 また、本体の「病院機能評価」に加え、「高度・専門機能」の認定を得たことも実績に繋がりましたね。リハビリテーション病院として必要な高度な医療や専門的な医療を審査していただき、私たち自身の強みや課題を明らかにできました。

課題と向き合ってきた5年間。

サーベイヤーの評価で、どんな内容が印象に残りましたか。

倉地 一番印象的だったのは、「前回受審時に課題として指摘された項目のほぼすべてが改善されたことは注目すべきである」という言葉です。これは私たちがここ5年間、頑張ってきたことへの賛辞だと思います。

森田 そうですね。5年前の指摘を自分たちの課題と受け止め、もっと良くしようと頑張ってきて、そこをきちんと認めていただけました。

猪川 たとえば前回、倫理的な取り組みについて充分ではないと指摘されたことは、改革のきっかけになりました。倫理的な問題については、実はずっと前から強化したいと思っていましたが、客観的に指摘されたことで、職員が高い意識を持って取り組むことができましたね。

森田 本当に。外部講師を招いて勉強会を開くようになりましたし、現場で生じる倫理的課題を、院長をはじめとする倫理委員会できちんと共有・検討できる体制も整いました。まだ完璧ではないですが、若いスタッフを含め、職員の意識が大きく変わったと思います。

倉地 倫理的問題を話す場ができたことがきっかけで、医師の意識も上がったように感じます。院長自ら率先して、医師によって異なる判断基準などを標準化する取り組みが進められました。

すべては「患者さん第一主義」のために。

この5年間で自分たちの成長を感じるのとはどこですか。

猪川 当院の取り組みは病院機能評価に認定されるためのものではありません。理事長が常に「患者さん第一主義のために質の向上に取り組もう」と言われていて、さまざまなワーキンググループや委員会が、患者さんのためにという思いで活動しています。その成果が、この5年間で実ってきたんだと感じています。

森田 たとえばS評価を受けた中にCBA認知関連行動アセスメント（意識や感情などの能力を点数化して、認知機能の重症度を評価するツール）と、ADL評価を組み合わせることで患者さんの経時的な変化を多職種で支えていく体制作りがあります。これは5年以上前から患者さんのために取り組んでおり、多職種が患者さんの状態の共通理解ができて、より良いリハビリテーション・ケアの実践に繋がっています。

病院機能評価のため、というより患者さん第一主義のためにやってきたことが、高い評価に繋がったんだと思います。

リハビリテーション部 部長 森田秋子





猪川 2020年度から取り組んできたカンファレンスの改革も成果を上げていますね。患者さんがどんなことを大切に、どんな生き方をされていて、これから何をしたいのかということ深く掘り下げて把握し、それを、カンファレンスでスタッフ全員が共有する体制が整いました。

森田 いかに患者さんを理解して、退院後の生活に向けて支援するか、ということは、今もADL(日常生活動作)ワーキンググループや接遇委員会で継続して取り組んでいるテーマで、スタッフの間はかなり浸透してきたよ

うに感じています。

猪川 職員教育について高く評価されたのも、ベースには患者さん第一主義の理念があると思います。当院が以前から取り組んできたサブリーダー制度や制服ワッペンなどが、個々のモチベーションアップに繋がると認められました(詳しくは、P.05)。

倉地 そういえば、総評でも「職員の向上意識の高揚と医療の質の向上へ向けた取り組みの一体性があり、それがより良い支援に繋がっている」と評価をいただきましたね。それは当院の強みですし、これからも伸ばしていきたい。その一方で、人材確保の必要性など新たに指摘を受けた課題もいくつかあります。それらを念頭に置いて、もっともっと医療の質の改善と向上に取り組んでいかなくてはなりません。

森田 はい、5年後にはもうワンランク上の評価をいただけるように。

猪川 みんなで気持ちを一つにして、取り組んでいきましょう。

病院機能評価 (リハビリテーション病院) 3rdG:Ver.2.0 で5つのS評価を取得

S評価 1.1.4 患者支援体制を整備し、患者との対話を促進している



審査結果で「患者支援の取り組みが秀でてい」と評価された。具体的には「相談窓口は社会福祉士5名、看護師1名による専従体制で、身体的、心理的、経済的アセスメントを丁寧に行っていること。相談者からの傾聴を重視することで心理的安心感を与えていること」などがポイントとして挙げられた。特筆すべきは、近年、社会福祉士が中心となって力を注いでいる「就労支援体制」である。近隣の就労支援事業所と連携し、退院した患者さんのなかで比較的障害の軽い方の再就職を積極的に支援し、実際に多くの人の就業を実現していることもS評価に繋がった。

S評価 2.2.19 言語聴覚療法を 確実・安全に実施している



審査結果で「言語聴覚療法の実践、患者支援は極めて秀でてい」と判定された。とくに、言語聴覚士がチーム医療のリーダーシップを発揮し、他の療法士、看護師などと共に、入院時から全患者に対して「CBA認知関連行動アセスメント」を実施する体制を作ったことが評価された。また、「言語聴覚士は入院初日の昼食時に管理栄養士と共に嚥下の評価を行い、安全な経口摂取に向けて取り組んでいること。病棟でのリハビリテーション導入基準を作成し、病棟でのリハビリテーションを早期に繋げ、意思決定支援を行っていること」など多くの点がS評価に結実した。

S評価 4.3.2 職員の能力評価・能力開発を適切に行っている



審査結果で「ラダーを用いた専門教育(看護部、セラピスト、社会福祉士の各部門)」などのほか、「スタッフの自己研鑽意識の向上を図る取り組み」について高く評価された。具体的には、専門職の相互乗り入れ型チーム実現に向けて、2年目以上の看護師、各セラピストがサブリーダーを担う「サブリーダー制度」を導入していること。2年目以上の看護師、各セラピストを対象に「4段階の院内資格グレード制」を導入。「制服ワッペン」で、それらのランク(接遇優秀者、資格取得者を含む)を視覚化していることで、職員の育成と研鑽意識の高揚に繋がっている。

S評価 3.1.5 リハビリテーション機能を適切に発揮している



当院では、伝統的に療法士のケア参加を重視し、力を注いできた。その取り組みが認められ、今回の審査でも「理学療法士・作業療法士(各病棟2名)の早出勤務、言語聴覚士(各病棟1名)の遅出勤務の実施」が高く評価された。早出勤務では、1時間を個別のADL訓練、1時間をケア担当として活動。毎朝のケアに入ることで、看護・介護との情報共有にも活用されている。言語聴覚士の遅出は口腔ケアの実践において効果を発揮している。療法士が朝、夕のケアに入ることで、ADLの課題がより明確となり、退院後の生活支援に活かされている。

S評価 2.2.23 必要な患者に継続した診療・ケアを実施している



入院中だけでなく、退院後の生活を支えることは、当院が力を注ぐテーマである。今回の審査で「退院後も継続的に診療、リハビリ・ケアが必要とされる患者の在宅療養支援への取り組みは秀でており、高く評価できる」という判定をいただいた。具体的には、「在宅療養支援は入院中から多職種で検討されていること。同一法人内に訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションがあり、病棟担当職員と法人内のサービス担当者が直接、情報共有・協議する場が設けられていること。入院中に下肢装具を作成された患者さんへのサポート体制」などが挙げられた。

高度・専門機能 リハビリテーション(回復期)(Ver.1.0)



今回の認定では、「病院機能評価」と並んで「高度・専門機能 リハビリテーション(回復期)」においても認定を獲得した。この認定では「良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営」「回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性」「チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践」等の4領域にわたり、それぞれ評価項目が設けられ、厳しい審査を受けた。その結果、すべての項目で4段階評価(I~IV)のうちII(適切に行われている)以上。とくに「言語聴覚士は役割・専門性を発揮している」において、I(秀でてい)という判定を得た。

珪山会
グループからのお知らせ

Support Party!

鵜飼病院

地域に密着した病院として、患者さん・ご家族を支えます。

当院は、地域に密着した病院として近隣の病院や診療所と連携を取り、患者さんにとってより快適な入院診療・外来診療を提供できるよう努めています。急に体調が悪くなられた方や、救急車の受け入れにも対応しており、整形外科手術も行っています。

また、患者さん、ご家族の「自宅で生活を」という気持ちにお応えできるよう、リハビリテーションにも力を入れています。法人内外の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所と協力し、患者さんのご自宅での生活を支えます。



施設概要

リハビリテーションを中心に医療・福祉活動を展開しています。最先端設備と人に優しい環境を整え、患者さん一人ひとりを支えます。

診療科目：内科・神経内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科

病床数：120床（一般病床30、地域包括ケア病床30、療養型病床60）

外来受付時間

月～金曜日 9:00～12:00 / 15:30～18:00

土曜日 9:00～12:00

休診日 日・祝

※在宅医療サービス、介護保険サービスも行っています。

鵜飼リハビリテーション病院

■通所リハビリテーション（1～2時間）

利用者さんの状態に合わせ、専門スタッフがリハビリや運動を実施します。



介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）で、1時間30分の短時間型通所リハビリを提供しています。病院を退院した後、安心してご自宅での生活が送れるよう、専門スタッフ（理学療法士）が利用者さんの状態やニーズに合わせて、個別リハビリ（20～40分）や機械を使っの運動（40～50分）を実施します。

また、平成24年から、要介護者の方に限りお宅を訪問しています。実際の生活現場で情報収集を行うことで、解決が必要な課題を明確にし、より充実したリハビリを提供できるよう、スタッフ一丸となりサポートしています。

施設概要

利用者さんの状態に合わせ、20～40分の個別訓練と1時間程度の自主訓練で体力や基本動作能力の維持・向上をはかります。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月・木・火・金・水・土（祝祭日を含む）

ご利用時間：午前 9:00～10:30 / 10:30～12:00
午後 13:00～14:30 / 14:30～16:00

サービス内容

- 筋力増強訓練や関節運動など
- 食事・排泄・更衣・入浴など日常生活動作
- 住宅環境の整備
- ホームプログラムの指導 など

※食事・入浴・送迎はありません。

通所リハビリ ウカイ

■通所リハビリテーション（1～2時間）・（3～4時間）

病院でのリハビリと同等のリハビリの提供に努めています。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）です。利用者さんの状態やニーズに合わせ、医師やリハビリ専門スタッフがサービスを提供します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置し、病院でのリハビリ（医療保険）が終了となった場合でも同等のリハビリを提供できるよう努めています。



日常生活での動作獲得やコミュニケーション能力の向上等をめざし、身体機能や筋力の維持・向上がはかれるようプログラムを立案。個別リハビリ、機器での筋力強化やマッサージ、物理療法の低周波やホットパック等を行います。

施設概要

体力や基本動作能力の向上をはかりたい方を対象に、20～40分の個別訓練と1～3時間程度の自主訓練を行います。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:30
午後 13:30～17:00

サービス内容

○3つのコースと利用者に応じた個別リハビリテーション

○健康状態の確認（メディカルチェック）など

※食事・入浴サービスはありません。
※3～4時間型は送迎があります。

デイサービスセンター大門（鵜飼在宅センター大門1階）

今の生活を末永く維持するための効果的な予防サービスを提供します。

健康と要介護状態の中間に位置づけられるフレイル（虚弱）状態の改善をめざす専門のトレーニング施設です。

介護保険に加え、自治体が運営する介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）の方が対象となります。

当センターでは、サービス利用にあたり必要な介護保険や総合事業への申請の援助を行います。フレイルの改善したい症状に応じたプログラムをご提案するだけでなく、主体的な健康づくりの習慣づくりに向けた健康講座なども行います。また、PT・OTが常駐して個々の能力や疾病に合わせてアドバイスをしています。



施設概要

健康維持・介護予防をはかりたい方を対象に1～3時間程度の集団プログラムをご提供します。

対象：要介護・要支援認定の方、名古屋市の総合事業対象の方

ご利用日：月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）
ご利用時間：午前 9:00～12:10
午後 13:00～16:10

サービス内容

○介護保険総合事業申請のお手伝い

○集団トレーニングメニュー

・基礎体力づくり ・歩行支援 ・コグニサイズ
・シニアヨガ ・音楽療法 など

※食事・入浴サービスはありません。

大門訪問看護ステーション（鵜飼在宅センター大門2階）

短期間の利用も可能。退院後の不安を取り除きます。

「退院後すぐに体調が悪くならないだろうか」「自宅でどんな運動をすればいいのだろうか」「トイレやお風呂の介助がうまくできるだろうか」など、退院後の不安はどなたもお持ちだと思います。

当ステーションでは、退院前のリハビリ見学等を通して入院スタッフからの情報収集を実施しており、退院後、看護師やリハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が週1～2回程度訪問して、ご本人の状態や環境に合わせた指導・援助をしています。退院後から生活が落ち着くまでの短期間利用も可能です。



施設概要

看護師、リハビリスタッフがご自宅に訪問し、利用者さんやご家族が安全・安心に暮らせるよう、在宅生活を支援します。

営業日時：月～金曜日 9:00～18:00（祝祭日、年末年始を除く）

サービス提供地域：中村区・西区（一部）・中川区（一部）

サービス内容

○健康状態・病状観察

○日常生活の支援

○医療処置・カテーテル管理支援

○在宅リハビリテーション

○看護・介護・住宅改修・福祉用具の助言、相談 など

※ご利用にあたっては医師の指示書が必要です。ステーションにお問い合わせいただくか、ケアマネージャーにご相談ください。
※看護師の24時間対応。